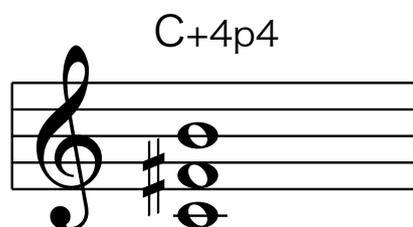


第10回 Upper structure triad①

+4P4 Interval build

次の構造で作られる3声パートの和音です。+4P4 Interval buildはパートとして、これ以上の音の積み重ねはありません。



このパートだけを用いた参考曲です。

[3-10 Etude 1]

G+4p4 F#+4p4 F+4p4 E+4p4 E♭+4p4 E+4p4 F+4p4 F#+4p4 G+4p4 F#+4p4 F+4p4 E+4p4

F+4p4 F#+4p4 G+4p4 A♭+4p4 E+4p4 C+4p4 C#+4p4

CΔ7

通常システムへの+4P4パーツの流用

ルートを変化させて「C+4P4」パーツを上部に乗せてみます。もとなる3度堆積コードを確認してみます。

Two musical staves showing chord voicings. The first staff shows C Δ 7(#11), Co Δ 7, B7(b 9), Am69, and A b 7(#9 b 13). The second staff shows F#o7(11), F#o7(11), F7(b 9#11), Am69/E, E b o7(b 13), and D7(913). Red X marks are placed over the B7(b 9) and F7(b 9#11) chords, and the A b 7(#9 b 13) and D7(913) chords are circled in purple.

この中で最も用いられるのはA b 7(#9 b 13)とD7(9 13)です。特に、単純にルートだけを補完したものは、「 b 13」と「9」をOmitした合理的なVoicingになります。

Musical notation showing four chord voicings: A b 7(#9 b 13), A b 7(#9), D7(913), and D7(13). Red arrows point to the 9th and b 13th notes in the first two chords, labeled "omit".

P4パーツ、+4P4パーツを用いた練習曲です

【3-10 Etude1】

C△7 G♭7(#9) F69 B7(#9) F7(13)

B4.3 B♭+4p4 A4.3 E♭+4p4

Cadd9/E A7(#9) E♭7(13) Dm7(11) G7(13) D♭7(#9)

D4.3 D♭+4p4 G4.3 F+4p4

Upper structure triad①

Upper structure triad(以下UST)は「上部構成3和音」の意味になります。まず大切なのは、**通常**のメロディを支えるコードとして用いるものではなく、**ハーモナイズの一手法として用いるもの**だということです。

【USTの作成条件】

- ・ 上部はメジャートライアド・マイナートライアド・オーギュメントトライアドを使う(ディミニッシュトライアドは含まない)
- ・ 上部にテンション音を含むこと(トライアドベースの場合は△7を含む)
- ・ 当然ながらアボイドノートを回避する

【USTの表記法】

分母、分子共にコードネームを使う。通常の分数コードのように「分母=ルート」ではなく「**分母=コード**」となる。

G/C△7

Major scale systemでのUST

: CにてトライアドでのDiatonic chordを確認します。

C Dm Em F G Am

VIIについてはBm(♭5)のディミニッシュトライアドとなるので除外されます。

Ionian～Locrianまでの各アボイドノートを確認します。

	アボイド	: Cでのノート
Ionian	11th	F
Dorian	13th	B
Phrygian	♭9 ♭13	F C
Lydian	無し	
Mixo-Lydian	11th	C
Aeolian	♭13	F
Locrian	♭9	C

ベースコード(分母)に乗せられる上部トライアドは次の表になります。

	ベースコード(:C)	C	Dm	Em	F	G	Am
Ionian	C(6)	■	×	○	×	○	○
	C△7	■	×	×	×	○	○
Dorian	Dm7	○	■	×	×	×	○
Phrygian	Em7	×	×	×	×	×	×
Lydian	F△7	○	○	○	■	○	×
Mixo-Lydian	G7	×	○	○	×	■	×
Aeolian	Am7	×	×	○	×	○	■
Locrian	BØ7	×	×	○	×	○	×

なお、「×」のところはアプローチコードとしてなら用いることができます。

楽譜で確認します。

Em/C G/C Am/C G/C△7 Am/C△7 C/Dm7 Am/Dm7

C/F△7 Dm/F△7 Em/F△7 G/F△7 Dm/G7 Em/G7 Em/Am7 G/Am7 Em/BØ7 G/BØ7

各USTを通常のコード表記にするとどうなるかを確認してください。

D7CのバリエーションコードにおけるUST

Dm/Csus4 F/Csus4 C/Gsus47 Dm/Gsus47 F/Gsus47 Am/Gsus47

これも、通常のコード表記を確認しましょう。

USTの実践

Major scale systemでのUSTを用いた練習曲です。実践で用いるには以下のことを確認してください。

- ・ USTはテンション音を含むので、すべてにおいて使うわけではない。
- ・ アプローチトーンのところは「X」のUSTを用いる。

上段がメロディ。2段目がUST、3段目がアプローチハーモナイズです。USTのサウンドキャラクターを比べてください。

The musical score is presented in 4/4 time and consists of two systems of four measures each. The first system features the following chords: CΔ7, Dm7, Em7, and Am7 G6. The second system features: FΔ7, Em7, Am7, Dm7, Gsus47, and G7. The score is written for three staves: the top staff contains the melody, the middle staff is labeled 'UST' and shows various chord voicings and textures, and the bottom staff is labeled 'アプローチハーモナイズ' and shows more complex voicings with accidentals and ties.